

# Fast life, slow life

村越 真

6月19日

JOA 理事会、小野会長が久しぶりに理事会に参加し、挨拶をされた。出席の直前、秘書であり理事でもある田鍋さんが、携帯で誰かと連絡をとりあっていた。国務大臣ともなると、15分間理事会に出席することでさえ、周囲はいろいろと大変なようだ。

理事会後、原宿から池尻まで。興奮気味か、軽い頭痛で35分にて打ち止め。夜から理事勉強会。

20日

7月のアドベンチャーレースのためのカヌーの練習を、利佳ちゃんとともに名栗湖で行う。仕事の後には「ご褒美」がないとね。前の日に、静大のモダンダンス部の学生が静岡の海岸で高波にさらわれ、なくなっていたとチャコからの電話で聞いていた。そのニュースは関東圏のラジオでも流れていた。直接責任があるわけではないが、数年前にも同じような事故があり、その話を危機管理の本に書いたにも関わらず起こった事故に、複雑な気持ちだ。

23日

いつものように目覚め、食卓につくも、全く食欲がない。起床時に疲労感からだるいと感じることはこれまでもあったが、この日は疲労感さえもなく、ただ気力だけがなかった。「何もしたくない」ならまだいい。「したくない」という欲求があるのだから。ところが、この日は、したくないということも含めて、何かしたいという気が全く起こらなかった。鬱の初期症状というのはこんな感じなのだろうか。

理性を働かせて、保健管理センターで診断を受けた。気休めなのだろうが、とくに問題なし、過労ではという診断に少しは安心する。今や、疲労感すらも感じられなくなってきたのかもかもしれない。

26 - 27日

作手で、競技責任者やプランナーとWOCの打ち合わせ。今回のお楽しみは、作手のサロネ・デル・モンテに頼んでおいたマ



鹿屋体育大学で運動生理学の研究をしている山本嘉春さんと、王滝村のアドベンチャーレースにて。彼も登山の趣味が高じて、登山の運動生理学を究めている、いわば同類である。学生チームをつれてのアドベンチャーレースの参加であった。

ウンテンバイクが納車になることだ。納車後三河湖そばの宿に着くと、さっそく乗り回してみたくなった。国道301を号を作手に引き返し、そこから北に向かって三河高原を走り、三河湖沿いに下る約25kmくらいの道を走った。どの道も何度となく走った道だったが、自転車の速度は、作手の自然を味わうには絶妙だった。通りなれた景色がいつにもない輝きを放ってみえた。

28日

午後3時まで調査して、愛知教育大学へ。野外活動の集中実技の打ち合わせを、松澤とその指導教官とした後、松澤とオリエンテーリング本の打ち合わせ。道場主も、ま

だまだ精進が必要なようだ。

30日

静岡を台風が直撃した。暴風雨警報も出たので、当然午後には休講と決め込んでいたら、正午すぎにはさっさと天気がよくなってしまい、青空が広がった。体育の授業はフライングディスクにした。アルティメット(フライングディスクを使ったアメリカンフットボールのようなもの)に、子どものように熱中して、汗だく。

7月1日

ワンゲル部に所属する学生が訪ねてきた。僕の地図本の読者だという。これまでクラブでの決まった場所への山行しかしてい orienteering magazine 2004.10 31

なかったが、ダブ南(南アルプス南部:山が深く大変なルートが多い南アルプスの中でも人出の少ない、秘境の地)に行きたいので、地図も読めるようになりたいという。できれば個人的に地図読みを教えてほしいという。その熱意に動かされて、2週間後にワングル部向けに講習会を行うことにした。

3日

朝8時から富士の岩倉学園にいて、ナショナルチームの夏合宿受け入れのお願いをした後、合宿のためのコントロールを6つほど設置、さらに10時から子どもの国で親子のためのオリエンテーリングの講習。13時から、朝霧の野外活動センターで危険認知の講習とデータ収集。我ながら大車輪の活躍だな。

その後は、ハヶ岳に移動して、マウンテンバイクの集會に合流。

4日

マウンテンバイカーのための読図講習講師。14時に終了後、今度は参加者が軽いツーリングに連れていってくれた。自分じゃあ、筋力が弱いと思っていたが、なんだ、十分登りでも戦えるじゃないか。下りのシングル・トラックでも上級者の後についていくと難なくベストのラインを走ることが

か、暑さが気にならなくなってきた。8日のインターバルでは300を6本走って、前半は久しぶりに54秒くらいで走れた。最後に200を一本走ると、高性能のスポーツカーのように、スピードアップに体が、すっと反応する。

9日

トレーニングにいく清水の体育館の管理人さんが顔なじみで、大学にそばに新しい公共のトレーニングジムができたことを教えてくれた。大学から車で5分。トレッドミルの数も多いし、マシンはウェイトだし、いいことづくめだ。新しいせいか、すいているのもいい。この3ヶ月はちょっと離れた

たエグザスに、法人会員ということで50円でいっていたが、今ひとつインストラクターのベタベタ感と空間の窮屈さになじめなかった。こちらは500円とやや高いが、往復30分の時間節約になると思えば安いものだ。

10日

本栖湖で利佳ちゃんとチーム阿蘭梨二回目のトレーニング。この天気が続けばさぞかし、水上のカヌーは楽しいだ

Bで森の中に入るのもまた快感。

13日

今週もクラブトレーニングに参加。彼らのトレーニングだけでは物足りないので、事前に自分で40分くらい走ってから出かける。ゆっくりとグラウンドの芝生を走っているうちに、なぜか20歳台のころのトレーニングのことを思い出して、とってもいい気持ちになった。体調的にも暑さに順応したのか、いい感じ。そういえば最近目も、頭もあまり痛くない。ただし練習後は水分不足+飲み過ぎで胃が重い。水の取り方を考えないと。

16日

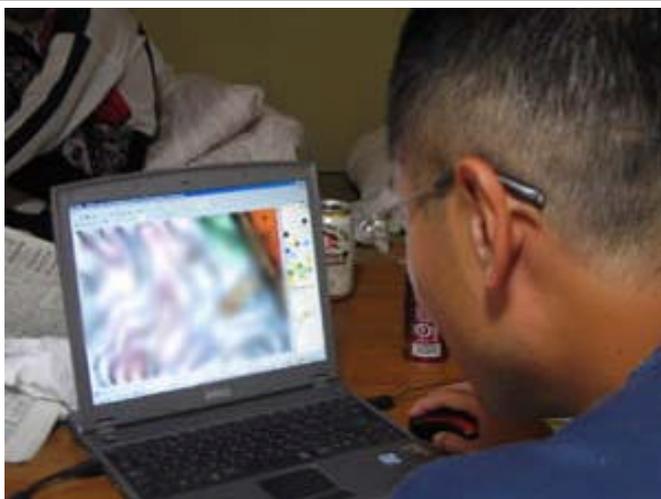


世界選手権の試走会にて。中央は予選コースプランナーの野中君。

ろうなとウィークデーに思っていたが、週末だけ雨。雷を怖がりながらの、カヌー練習となった。でも、雨も悪いことばかりじゃない。激し

近くのメッセ会場で、リクルート主催の大学合同説明会が行われた。受付でくれた名札に書いてあったのが「出展者」なるほどね。会場に入って、他大学の熱意に驚く。「11時からですが、午前中は高校生もあまり来ないので、まあ11時すぎに来るくらいでいいです」と言われ、実際事務官も11:30によやく来る始末だったが、僕がついた11:05には、すでに周囲の大学のブースは飾りつけられている。大学は今や受注を競う見本市出展者なのだと悟った一日であった。

夕方は、長野の王滝村に移動。明日はアドベンチャーレース結核だ。蕁崎で利佳ちゃんを拾って9時過ぎにキャンプ場に到着。



世界選手権を支えるマップの一人、羽鳥和重。冬ソナが始まる前に作図にいそしむ。

できる。マウンテンバイク堪能の一日。

6日ごろ

大学のオリエンテーリング部の夜間ランニングトレーニングに参加。2年ぶりくらいの参加か。偏頭痛は相変わらずだが、体の動きはいい。6月後半は暑さに参っていたが、7月に入って、体が慣れてきたせい

い雨の中での自転車は、ワイルドな気分になって楽しかった。

12日

夕方はやめに仕事を終えて、MTBで日本平を越えて帰る。夕暮れ迫るなか、MT

パスタを食べて翌日に備える。

17日

王滝で ADR のビギナークラスに出場した。MTB、トレイルラン、リポートレック、カヌーの4種目からなる、約25 kmのレースだ。フルの ADR は体への負担も大きいだろうが、この距離なら、トレーニングとしても適度な距離だ。

ADRでは多摩OLの田中正人の率いるイーストウィンドにならぶプロチーム「侍スピリッツ」の佐藤さん、登山の生理学で有名な鹿屋体育大学の山本さんなど、多くの人と出会えた点も貴重なレースだった。翌18日は、霧雨の中、御岳登山。山頂はとんでもない強風だった。

レースについての詳しい報告はADR参加記を参照。

23日

スピードスケートで静岡県の代表をやっている研究室の学生と、近所の体育館にトレーニングに。彼女は、週末のナショナルチームの合宿にデータ取りに行っていたので、「どうだった?」と聞くと、「みんなオリエンテーリング好きなんですね。スケートはだめだなと思っちゃいました。」という。僕らにはスケートといえば清水や堀井のイメージしかないが、彼女が日ごろ経験しているのは地域の連盟レベルだから、そこからみればオリエンテーリングの世界もそんなふうに見えるのかもしれない。多分僕らは、自分たちが思う以上に凄く存在なんだろう。

25日

WOC予選の試走。調査者の間では「大秘境」と呼ばれるこのエリアも、地図になって走ってみると、意外とエグくないものだ。世界標準の6分/kmは無理でも、なんだ6分40秒くらいはいけそうじゃないか。暑さのせいで、区切りながらのテストランではあったが、最近のトレーニング量のせいか、走ったあとの疲労感ほとんどなかった。

28日

駒場の東大キャンパスで、地図関係の研究会。今、この分野じゃあ「ユビキタスマッピング」という概念がはやりだそうだ。「いつでも、どこでも、誰でも使える」(広い意味での)地図を普及させていくことが

ねらいだそうだ。地図はもともと汎用性の高いものだが、その汎用性が、誰でも地図が使えることを阻害しているのが面白い。ユビキタスになるためには、電子技術の助けを借りて、その場その場の用途と利用者に応じたカスタマイズが必要だ。僕らはいつでもどこでも簡単に地図が使えるのは、そのカスタマイズを頭の中で無意識にしているからなのだろう。

8月

1日

久しぶりに家にいる週末。チャコはトレイルOの会合で出かけたし、子どもは夏休みの相談で友達の家に行ってしまった。結局やることは世界選手権の書類整理だったりする。天気はよいが、軽い風も吹いて、うだるような暑さでもない。さあ、秋のアドベンチャーレースに向けて1週1度は3時間トレーニングだ。手始めに、この日は由比にある浜石岳に自転車で行く。片道30 kmで登り700 mは手ごろなトレーニング距離だろう。

夕方からのお祭りのために込み始めた車の列の脇を抜けていくのが気持ちよい。駿河湾沿いの道は車では走りなれているが、自転車での景色はいつも違う。サイクリングの人、東海道を歩いていると思いき人などが目に入る。

由比の古い町並みを抜けるといよいよ浜石への登り口になる。海から3 kmくらいの距離で700 mを一気に登る。予定通り90分で山頂へ。

暑い夏の時期にこんな低山に登る人は全くなく、駿河湾から富士山そして南アルプス前衛、日本平と360度の展望を独り占めだった。どっぴり疲れたが、とてつもない贅沢をした気分だった。

2日

水上の田中のところへ、オリエンテーリング&アドベンチャー本の打ち合わせ。夕方着いて、ひとしきりだべった後、軽いジョグをしながら町営温泉へ。レースに一度出た後だと、彼の話してくれるADRのレースの様子も、より親近感が感じられる。彼が間寛平のチームでレイド・ゴロワーズ初出場したボルネオの大会も、地図とビデオを見ると、自分も走ったかのような気分になってしまった。



今やアドベンチャーレースの第一人者。田中正人(多摩OL)の家にて。うしろで包丁を持っておどけているがパートナーの竹内(通称スー)さん。オリエンティア以上にオリエンテーリングの弱点を知っている貴重なサポーターだ。